

II-3. サクラの品種管理計画

1. サクラ品種の現状と課題

新宿御苑では、明治39年の改修以降、全国から多くのサクラの品種が集められ、現在 約千本 を有しています¹⁵。多種多様なサクラを楽しめる利用価値はもちろんのこと、導入の経緯が新宿御苑の歴史と深く関わる歴史・文化的価値を持ったサクラや植物学的に希少な価値を持ったサクラなどをみることができます。

しかし、多くの品種で老木化が進み、御苑における貴重な品種の継承、後継樹の育成が求められています。園内の圃場では限られた品種しか継承できないため、合理的な継承方法の確立が求められています。

そのため、現存するサクラの品種について、導入の経緯やいわれ、品種としての希少性などについて整理し、後継樹の育成と植栽計画などの品種の保存・継承のための管理計画の作成が必要となっています。

●サクラの品種保存・継承のための管理課題

<品種・個体の取り扱いの整理>

- ・新宿御苑にとって保存継承すべき品種・個体が何であるのかをカテゴライズし、取り扱いを定める必要がある。

<貴重な品種の後継樹の育成>

- ・後継樹育成の方針、圃場を含めた苗木の育成計画を作る必要がある。
- ・品種および個体の継承を主目的とした園内植栽場所を確保などについて検討する必要がある。

<園内植栽位置>

- ・新たに植栽する場合の植栽位置についての考え方を定める必要がある。



サトザクラを楽しむ様子



希少性の高い品種 ヒマラヤヒザクラ



大正時代に作成された桜調書

2. サクラ品種管理の基本方針

管理課題をふまえ、品種管理の基本的な取り組み方針を定めることとします。

●サクラの品種管理の取り組み方針

- ・「新宿御苑にとっての価値」を評価する項目を明確にし、品種・個体を分類することとします。
- ・評価にもとづき、取り扱いの 카테고리を定め、継承する品種・個体を明確にします。
- ・後継樹の育成をはじめとする品種管理を進めるための管理体制や役割分担を示します。
- ・サクラ保全再生管理計画との整合を図り、新たに植栽するサクラの植栽位置の考え方を示すこととします。

3. サクラ品種管理計画

(1) 品種・個体の評価の考え方

「新宿御苑にとっての価値」を評価する項目を、歴史性¹⁶、由来・いわれ、希少性¹⁷、人気¹⁸などの観点から設定し、現存する品種を対象として、各項目に該当する品種・個体を分類しました。

<品種>

- ・歴史的観点から、明治期の近代フランス式庭園への改修の際導入された品種および大正期に全国から収集した品種を主に評価します。
- ・由来やいわれのある品種を評価します。
- ・希少性の観点から、御苑のみ保有している品種、全国でも数か所しか保有していない品種を評価します。
- ・来園者の興味を惹く、人気が高い品種を評価します。

<個体>

- ・歴史的観点から、明治期の近代フランス式庭園への改修当時に植栽された品種のうち、現存する樹齢の古い個体を評価します。
- ・由来やいわれのある個体（日本初導入の可能性が高い、皇室に関わる、寄贈を受けた個体等）を評価します。
- ・一般的な品種の特性と異なる形状・性質を持つ個体を評価します。

なお、過去に導入され現存しない品種で重要なものについては、再導入を検討しますが、現状植栽スペースが限られている状況を鑑みて、具体的な時期は適宜検討することとします。

表4-1 サクラ品種・個体の評価区分 (R3.3改定)

品種・個体の評価項目と該当する品種

	評価項目	評価項目の細目	具体的な品種・個体 ※評価項目・品種は、今後、新たな知見があれば 適宜修正する
品種としての評価	A 御苑の歴史との関係	A1 改修前の明治14~15年に植えられた品種	吉野桜(染井吉野)
		A2 改修時(明治35-39年)に観桜会向けに植えられた品種	一葉、関山、普賢象
		A3 改修時(明治35-39年)に植えられた品種	枝垂桜、彼岸桜(コヒガン)、ヤマザクラ、 チョウジザクラ ○荒川堤の桜 小汐山、江戸、松月、増山、御衣黄、駿河台匂 ※現在園内に存在しない品種 細川匂、上匂、麒麟
		A4 大正7-10年に改めて植えた荒川堤の里桜のうち、現在まで引き継がれている品種	○当時の樹木から穂木を取り継承してきた品種 一葉、関山、普賢象、 天の川、雨宿、鬱金、江戸、御衣黄、小汐山、 薩摩寒桜、白妙、朱雀、駿河台匂、類嵐、福祿寿、弁殿 ○戦後再導入した品種 浅黄、嵐山、薄墨、五所桜、十月桜、松月、白雪、 増山、鶯の尾
		A5 大正7-10年に全国から収集した品種のうち、現在まで引き継がれている品種	○当時の樹木から穂木を取り継承してきた品種 妹背、駒繫、芝山、十二月桜、梅護寺数珠掛桜、 宝珠桜 ○戦後再導入した品種 オオシマザクラ、カンザクラ、カンヒザクラ、 長州緋桜、富士桜(マメザクラ)
		A6 昭和初期に植えられた品種のうち、現在まで引き継がれている品種	紫宸殿左近の桜、台湾緋桜、枝垂染井吉野
		A7 戦後~現在までに導入された珍しい品種	市原虎の尾、琴平、太白、椿寒桜、 熱海桜、日吉桜、汀桜
	B 由来・いわれ・エピソード	- 信州高遠城主内藤家の下屋敷であった歴史	高遠小彼岸
	C 庭園景観形成上重要な品種	C1 桜を観る会会場の景観構成品種	一葉、関山、普賢象、鬱金、福祿寿、白妙
		C2 御苑を代表する景観を形成	染井吉野、一葉、ヤマザクラ
	D 一般的希少性	D1 御苑のみ保有している品種	薩摩寒桜、ヒマラヤヒザクラ、十二月桜
		D2 全国でも数カ所しか保有されていない品種	宝珠桜、汀桜、紫宸殿左近の桜、高遠小彼岸
	E 来園者の興味を引く品種	E1 花の色が目目を惹く、早春に咲く	ヒマラヤヒザクラ、カンヒザクラ、 熱海桜、薩摩寒桜、修善寺寒桜
		E2 秋や冬に咲く	十月桜、ヒマラヤザクラ、子福桜
		E3 人気ランキングで上位の品種	一葉、御衣黄、福祿寿、鬱金、関山、枝垂桜、 八重紅枝垂、兼六園菊桜、染井吉野
	F 御苑の歴史との関係	F1 改修前の明治14~15年に植えられた品種のうち、樹齢の古い個体	染井吉野の古木(明治43年16本)
		F2 改修時(明治35-39年)に観桜会向けに植えられた品種のうち、樹齢の古い個体	一葉の古木(明治43年1本)
		F3 改修時(明治35-39年)に植えられた品種のうち、樹齢の古い個体(野生種)	ヤマザクラの古木(明治43年2本)
		F4 昭和初期に植えられた個体(野生種)	オオシマザクラの古木(昭和5年1本)
	G 由来・いわれ・エピソード	G1 日本初導入の可能性が高い品種	ヒマラヤザクラ(1本)、ヒマラヤヒザクラ
		G2 皇室に関わる品種+全国でも数カ所しか保有されていない品種	汀桜(1本)、紫宸殿左近の桜(1本)
G3 奇贈を受けた(皇室・海外貴賓に関係)		台湾緋桜(1本)	
G4 奇贈を受けた(記念樹など)		陽光(2本)、アメリカ(5本)、高遠小彼岸(8本)	
H 形状、性質の特異な個体	- 特異な樹形、花の特徴等のあるもの	浅黄	

注) 品種名のカタカナ表記は野生種を示す。(アメリカを除く)

注) 品種名は導入時の名称を用いている。※樹木データ名称と異なる品種あり

(2) 評価にもとづく品種・個体の取り扱いと新植樹確保の方法

品種・個体の評価にもとづき、品種の基本的取り扱いは、「引き続き園内で保持していく品種」「新宿御苑に現存するものを継承する品種」の2区分、個体の基本的取り扱いは、「可能な限り現存するものを保存する個体」「新宿御苑に現存するものを継承する個体」の2区分に分類し、それらの新植樹を確保する方法を以下のようにしました。

継承・園内に現存する樹木から接木苗を育成し、受け継いでいく

保持・接木育成による継承にこだわらず、外部から健全な樹木を調達するなどして、園内に当該品種が存在する状態を保つ

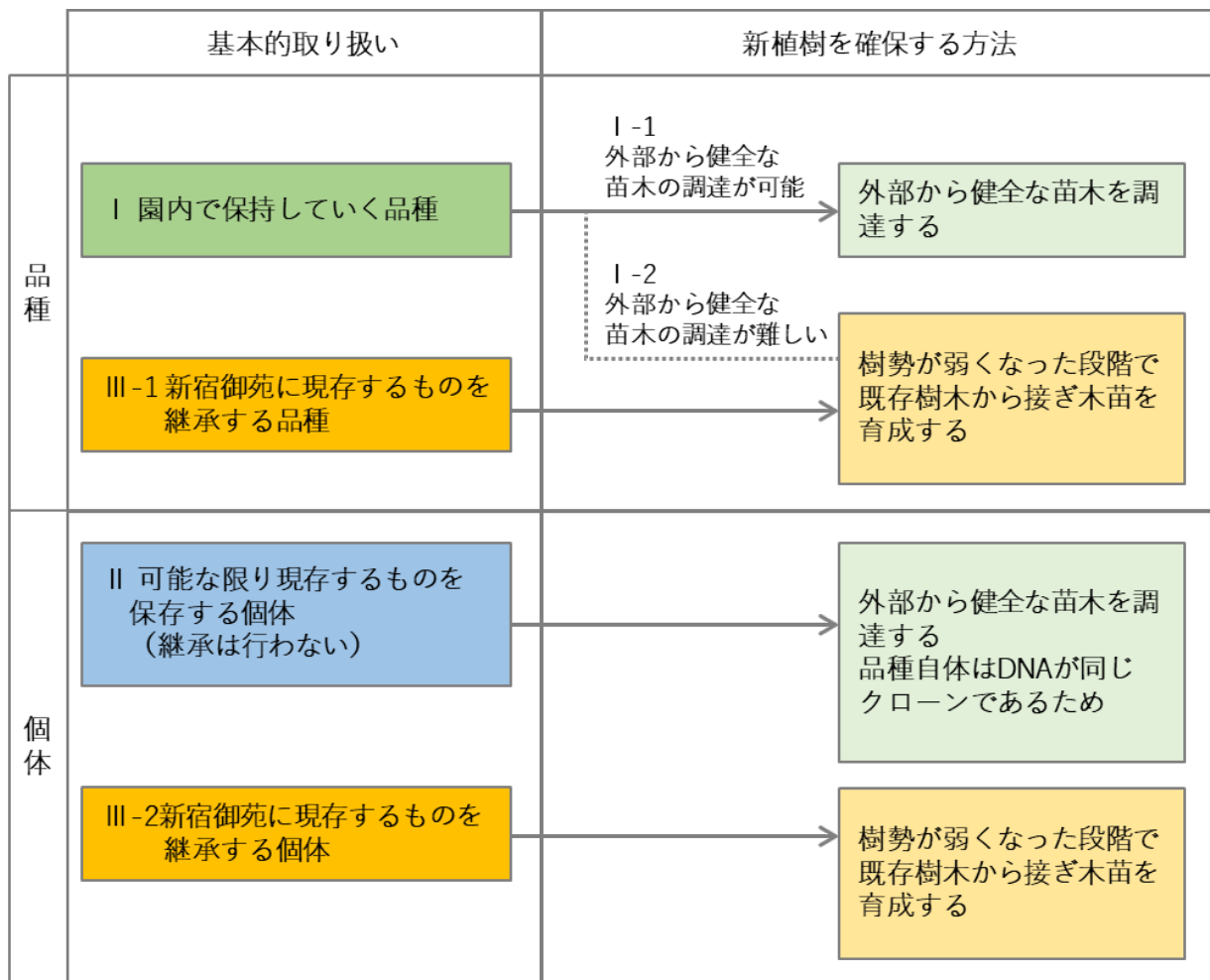


図4-1 基本的取り扱いのカテゴリーと新植樹確保の方法

表4-2-1 基本的取り扱い区分ごとの新植樹確保の方法と対象品種¹⁹ [R3.3 改定]

注) 基本的取り扱いのカテゴリーに分類する評価項目・品種は、今後、新たな知見があれば適宜修正する

基本的取り扱いカテゴリー		基本的取り扱い		新植樹を確保する方法	評価項目	評価項目の細目・具体的な品種
品種	I-1	園内で保持していく品種		外部から健全な苗木を調達する	A 御苑の歴史との関係	A1 明治35~39年の改修以前、改修の際に導入された品種 A2 染井吉野、一葉、関山、普賢象、枝垂桜4品種、彼岸桜(コヒガン)ヤマザクラ、チョウジザクラ
					B 由来・いわれ・エピソード (品種)	B 歴史的な関連 高遠小彼岸
					C 庭園景観形成上重要	C1 桜を観る会会場の景観構成品種 一葉、関山、普賢象、鬱金、福祿寿、白妙、松月 C2 御苑を代表する景観を形成 染井吉野、一葉、ヤマザクラ
					D 一般的希少性	D2 全国でも数カ所しか保有されていない品種 高遠小彼岸、長州緋桜
	I-2	園内で保持していく品種		外部から健全な苗木を調達する 外部からの調達が難しいものは、樹勢が弱くなった段階で既存樹木から接ぎ木苗を育成する	A 御苑の歴史との関係	A3 荒川堤の桜のうち、現在まで引き継がれている品種 A4 ○当時の樹木から穂木を取り継承してきた16品種 一葉、関山、普賢象、天の川、雨宿、鬱金、江戸、御衣黄、小汐山、薩摩寒桜、白妙、朱雀、駿河台句、類嵐、福祿寿、弁殿 ○戦後再導入した9品種 浅黄、嵐山、薄墨、五所桜、十月桜、松月、白雪、増山、鷺の尾
						A5 大正期に全国から収集した品種のうち、現在まで引き継がれている品種 ○当時の樹木から穂木を取り継承してきた6品種 妹背、駒繫、芝山、十二月桜、梅護寺数珠掛桜、宝珠桜 ○戦後再導入した5品種 オオシマザクラ、カンザクラ、カンヒザクラ、長州緋桜、富士桜(マメザクラ)
						A6 昭和初期に植えられた品種のうち、現在まで引き継がれている品種 紫宸殿左近の桜、枝垂染井吉野、台湾緋桜
						A7 戦後~現在までに導入された珍品種 市原虎の尾、琴平、太白、椿寒桜、熱海桜、日吉桜、汀桜
	III-1	新宿御苑に現存するものを継承する品種	他にはなく希少性が高いため継承(園外での継承も検討する)	樹勢が弱くなった段階で既存樹木から接ぎ木苗を育成する	D 一般的希少性	D1 御苑のみ保有している品種 薩摩寒桜、ヒマラヤヒザクラ、十二月桜
			数カ所でみられるが希少性が高いため継承(園外での継承も検討する)			D2 全国でも数カ所しか保有されていない品種 宝珠桜、汀桜、紫宸殿左近の桜
-	※A~Dの評価項目と重複する品種がほとんどであるため、その中で整理された扱いに準ずる			E 来園者の興味を引く	E1 花の色が目目を惹く・早春に咲く E2 秋や冬に咲く E3 人気ランキングで上位の品種	
V	園内で保持していく品種		外部から健全な苗木を調達する	A~Eいずれにも該当しない	戦後~現在までに導入された品種 伊豆吉野、大寒桜(安行寒桜)、カスミザクラ、オオヤマザクラ、紅鶴桜、横浜緋桜、紅豊、啓翁桜、太田桜、おかめ、河津桜、子福桜	

注) 品種名のカタカナ表記は野生種を示す。(アメリカを除く)

注) 品種名は導入時の名称を用いている。※樹木データ名称と異なる品種あり

¹⁹ 詳細は資料2-19「評価にもとづく品種・個体の取り扱いと後継樹確保の方法」を参照

表4-2-2 基本的取り扱い区分ごとの新植樹確保の方法と対象個体 [R3.3 改定]

注) 基本的取り扱いのカテゴリーに分類する評価項目・品種は、今後、新たな知見があれば適宜修正する。

基本的取り扱いカテゴリー		基本的取り扱い		新植樹を確保する方法	評価項目	評価項目の細目・具体的な個体
個体	II	可能な限り現在の個体を保存する (後継樹は確保しない)		外部から健全な苗木を調達する (品種自体はDNAが同じクローンである)	F 御苑の歴史との関係	F1 改修前の明治14~15年に植えられた品種のうち、樹齢の古い個体 染井吉野の古木(明治43年) F2 改修時(明治35-39年)に観桜会向けに植えられた品種のうち、樹齢の古い個体 一葉の古木(明治43年)
				外部から健全な苗木を調達する	G 由来・いわれ・エピソード(個体)	G4 寄贈を受けた(記念樹など) 陽光、アメリカ、高遠小彼岸
III-2	新宿御苑に現存するものを継承する個体	品種の原木のひとつとして継承(園外での継承も検討する)	樹勢が弱くなった段階で既存樹木から接ぎ木苗木を育成する	G 由来・いわれ・エピソード(個体)	G1 日本初導入の可能性が高い品種 ヒマラヤザクラ、ヒマラヤヒザクラ	
		原木のクローンを所有する1施設として継承			G2 皇室に関わる品種+全国でも数カ所しか保有されていない品種 汀桜、紫宸殿左近の桜	
		台湾間とセットでいわれを伝えるため継承			G3 寄贈を受けた(皇室・海外貴賓に関係) 台湾緋桜	
		初期に植えられた野生種として継承(野生種は個々にDNAが異なるため)		F 御苑の歴史との関係	F3 改修時(明治35-39年)に観桜会向けに植えられた品種のうち、樹齢の古い個体(野生種) ヤマザクラの古木(明治43年) F4 昭和初期に植えられた野生種の桜の個体 オオシマザクラの古木(昭和5年)	
		花の色など遺伝的な性質を持ち、他からの調達が困難なため継承		H 形状、性質の特異	H 浅黄	

注) 品種名のカタカナ表記は野生種を示す。(アメリカを除く)

注) 品種名は導入時の名称を用いている。※樹木データ名称と異なる品種あり